

4年ぶり関西“完全優勝”

天理大学ラグビー部は3日、京都府の西京極陸上競技場で開催された「2016ムオ関西大学ラグビーリーグ」最終節に出場。同志社大学と全勝同士の対決となつたこの試合、フォワード(FW)、バックス(BK)がかみ合つたプレーを見せ、34-12で快勝。

4年ぶり8度目の関西優勝を飾つた。

「2016年度の大学選手権での準優勝以後、関西でも勝てない時期が続いた。一人ひとりの意識改革に取り組んだ」と小松節夫監督(53歳)。

天理
スポーツ

2年前からセットプレーの安定を中心としたラインアウトなどに力を入れてきた。

今リーグ開幕前には、日本一のスクラムを誇るジャパンラグビートップリーグのヤマハ発動機ジユピロへ、リーグ中には同リーグの近鉄ライナーズへFW陣が出向き、スクラム指導を仰いだ。

「走り勝つ」「BK中心」という天理ラグビーの伝統に「強力FW」という新たな強みが加わった今季。初戦の摂南大学戦を80-0で圧勝し、白星スタートすると、その後も危なげない試合運びで快進撃を続け、全勝で最終節を迎えた。

決勝当日、6千788人のファンが注視するなか、キックオフ。開始5分、同志社大に先制トライを

決められるも、17分、23分に天理大が立て続けにトライ。前半を12-12の同点で折り返す。

後半2分、自陣22メートルインまで攻め込んできた相手選手に、ジョンヌア・ケレビ選手(4年)が強烈なタックル。密集からこぼれ出たボールをチームの俊足を誇る久保直人選手(2年)が拾い上げ、右タッチライン沿いを約80メートル独走し、勝ち越しトライを挙げた。

38分には、日本代表選出経験のあるファウルア・マキシ選手(同)がタックルされながらもトライを決めるなど、後半4トライの猛攻と持ち前の粘り強いディフェンスで勝利し、4年ぶりの関西王者の座を“完全優勝”でつかみ取った(写真)。



天理大ラグビー部

で優勝したBチームの仲間たちがサポートしてくれた。さらに、スクラムやアタックディフェンスの相手もしてくれたことであ強くなれたと思う。関

西での優勝がゴールではない。日本一という目標に向かって、これからもひたむきに戦つていただきたい」と意気込みを話し

た。

小松監督は「昨年この舞台で敗れたので、借りを返すために1年間やつてきた。前半はテンポを落として相手を勢いづけてしまつたが、今年の選手たちは修正能力が高いので、すぐに自分たちのラグビースタイルに持ち込むことができた。大学選手権では、関西王者の名に恥じない戦い方をしたい」と語った。

◇
第53回「全国大学ラグビー選手権大会」は、5大会ぶりにトーナメント制で争われ、天理大は準々決勝から出場。17日に東大阪市花園ラグビー場で、流通経済大学と慶應義塾大学の勝者と対戦す

る。